

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 07-189598

(43)Date of publication of application : 28.07.1995

(51)Int.Cl.

E21D 20/00

(21)Application number : 05-329392

(71)Applicant : K F C:KK

SUEMATSU NOBUO

(22)Date of filing : 27.12.1993

(72)Inventor : TACHIMOTO TSUKASA

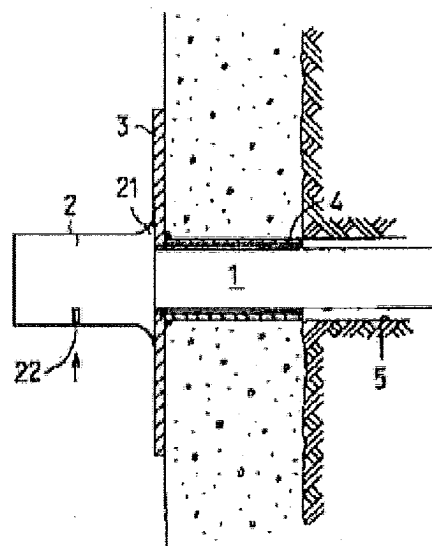
SASAI KATSUMI

(54) LOCK BOLT SETTING METHOD

(57)Abstract:

PURPOSE: To offer a lock bolt setting method consisting of such procedures that a lock bolt to expand in the radial direction with pouring of a high pressure water and also shrink in the length is inserted in a hole bored in the natural ground and is fixed with the expansion as mentioned, wherein it is made practicable to sever the protruding end of the bolt from the place where a bearing plate is in proximity without impairing the function of the plate after the bolt was set in place.

CONSTITUTION: In execution of works with a lock bolt, a sleeve 4 at whose one end a bearing plate 3 is formed, is fitted on the lock bolt 1 so that the plate 3 is positioned at the mouth end of the bolt 1. Then the bolt is expanded with pouring of a high pressure water.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-189598

(43) 公開日 平成7年(1995)7月28日

(51) Int. Cl.⁶
E 2 1 D 20/00

識別記号	片内整理番号
A	W

P I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平5-329392

(22) 出願日 平成5年(1993)12月27日

(71) 出願人 000129758

株式会社ケー・エフ・シー

大阪府大阪市北区西天満3丁目2番17号

(71) 出願人 594000697

末松 伸夫

東京都港区西新橋2丁目11番6号 ニュー

新橋ビル アトラスコブコ株式会社内

(72) 発明者 田知本 典

大阪府大阪市北区西天満3丁目2番17号

株式会社ケー・エフ・シー内

(72) 発明者 佐井 勝己

東京都港区西新橋2丁目11番6号 ニュー

新橋ビル アトラスコブコ株式会社内

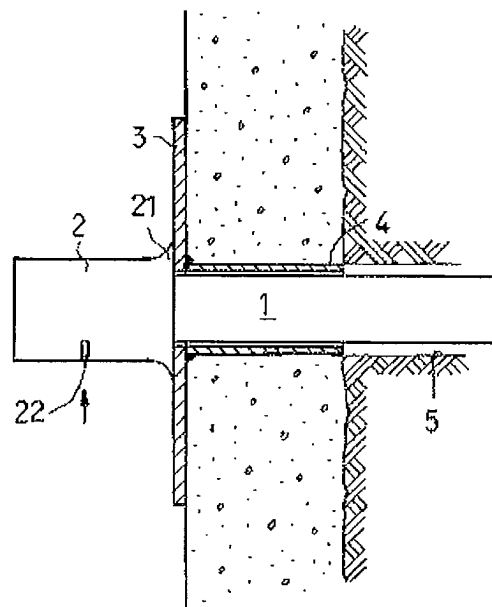
(74) 代理人 弁理士 三枝 英二 (外4名)

(54) 【発明の名称】 ロックボルトの施工法

(57) 【要約】

【目的】 地山の穿孔に、高圧水の注入で径方向へ膨張すると共に長さが縮小する型のロックボルトを挿入し、これを前記膨張で定着させるロックボルト施工において、ボルト施工後、ベアリングプレートが所要の機能を失うことなしに、ボルトの突出端部をベアリングプレートの近接箇所から切除することを可能にする。

【構成】 上記様式のロックボルト施工において、一端にベアリングプレート3を形成したスリーブ4を同プレート3がボルト1口端側となるようロックボルト1に外嵌して、該ボルトの高圧水注入による膨張を行うことを特徴としている。



(2)

特開平7-189598

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 高压流体の注入で径方向へ膨張すると共に長さが縮小する型のロックボルトをトンネル地山にあけた孔に挿入し、これを前記膨張で地山に定着させるロックボルト施工において、一端にベアリングプレートを形成したスリーブを該ベアリングプレートがボルト口端側となるよう前記ロックボルトに外嵌して、該ボルトの前記膨張を行うことを特徴とするロックボルトの施工法。

【請求項2】 ロックボルトが、奥端側がベアリングプレート押えになったスリーブをボルト口部に外嵌、固定したものである請求項1記載のロックボルトの施工法。

【請求項3】 ロックボルト口部のスリーブ奥端のベアリングプレート押えが拡開型である請求項2記載のロックボルトの施工法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は高压流体の注入で径方向へ膨張すると共に長さが縮小する型のロックボルトをトンネル地山にあけた孔に挿入し、これを前記膨張で地山に定着させるロックボルトの施工法に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、この種方式のロックボルト施工では、ロックボルトとして、ボルト口部にスリーブを外嵌し、これをボルト口端で溶接一体化し、該一体化部を除く個所では摩擦係合させた構成のものを用い、ボルト口部のスリーブ奥端部を拡開してロックボルトにおけるベアリングプレートのための押えに充てている。これによると、ボルト施工後、防水シートの張設を旨く行い得るよう、ロックボルトの突出端部をベアリングプレートに近接する個所から切除することはできない。切除すると、ボルト口部のスリーブの結合がボルトとの摩擦係合のみで前記拡開端部の残部という短小な領域につきなされるため、ベアリングプレートが所要の機能を失ってしまう。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 本発明の課題は、前述した様式のロックボルト施工において、ボルト施工後、ベアリングプレートが所要の機能を失うことなしに、ボルトの突出端部をベアリングプレートに近接する個所から切除することを可能にするにある。切除が可能であれば、ボルトの突出端部に邪魔されずに防水シート等を地山または一次覆工面に張ることができ、これを簡易に行い得る。

【0004】

【課題を解決するための手段】 上記課題解決のため、本発明は高压流体の注入で径方向へ膨張すると共に長さが縮小する型のロックボルトを地山にあけた孔に挿入し、これを前記膨張で地山に定着させるロックボルト施工において、一端にベアリングプレートを形成したスリーブ

2

を該ベアリングプレートがボルト口端側となるよう前記ロックボルトに外嵌して、該ボルトの前記膨張を行うことを特徴としている。

【0005】 後に説明する理由によって、上記ロックボルトには、奥端側がベアリングプレート押えになったスリーブ、より好ましくは拡開型のベアリングプレート押えになったスリーブを口部に外嵌、固定したものを充てるとよい。

【0006】

【実施例】 本発明の実施態様を示す図面を参照して、本発明を説明する。

【0007】 ロックボルト1には、それ自体従来と同様な構成のもの、例えば図3に示すような横断面形状を有する鋼管によるものを充てればよい。ロックボルト1は図1では概略化して示されている。該ロックボルト1には、ボルト1内空に連通する注入孔22を有するスリーブ2がボルト口部に外嵌、固定されている。該スリーブ2の奥端部は拡開されたベアリングプレート押え21になっている。スリーブ2には鋼管によるものが充てられている。ロックボルト1には他端部にもスリーブ（図示せず）が外嵌、固定され、またロックボルト1はその内空の両端がシールされる。

【0008】 ベアリングプレート3を一端に形成したスリーブ4をベアリングプレート3がボルト1口端側となるようボルト1に外嵌して、該ボルト1を地山にあけられた孔5に挿入し、注入孔22を通じボルト内空に高压流体例えば高压水を注入して膨張させる。

【0009】 ベアリングプレート3は、別体のものをスリーブ4に溶接等で結合一体化されていてもよいし、スリーブ4と一体に形づくられたものでもよい。このベアリングプレート3付きスリーブ4には鋼管によるものを充てることができる。

【0010】 ボルト1は前記膨張で地山に定着する。一端にベアリングプレート3付きのスリーブ4はボルト1の膨張で、該スリーブ4の部位のボルト1と強く摩擦係合し、一体的となる。

【0011】 スリーブ4に形成されたベアリングプレート3は、ボルト1の長さの縮小でボルト1口部のスリーブ2奥端に押され、地山または一次覆工面に固定される。ここに明らかなように、ボルト1口部のスリーブ2は、その奥端側がボルト1の前記縮小でベアリングプレート3を地山または一次覆工面に圧迫するベアリングプレート押え21の役割をする。

【0012】 場合によっては、ベアリングプレート押え21は無くてもよい。ベアリングプレート押えが無い場合、ボルト1の膨張でボルト1と一体的となったスリーブ4がボルト1の短縮でベアリングプレート3を地山側へ寄せる。

【0013】 ベアリングプレート押え21があると、地山または一次覆工面に対するベアリングプレート3の押

(3)

特開平7-189598

3

4

圧、固定がより確実である。この確実性は、スリーブ2
奥端が拡開型であれば向上する。

【0014】本発明でベアリングプレート3は、ボルト
1の膨張でスリーブ4と共にボルト1に対し一体的とな
る。従って、ボルト1施工後、ボルト1の突出端部をベ
アリングプレート3に近接する箇所から切除しても、ベ
アリングプレート3は所要の機能を保持する。

【0015】

【発明の効果】上記のように本発明は、冒頭に述べた様
式のロックボルト施工において、ボルトの施工後、ベア
リングプレートが所要の機能を失うことなしに、ボルト
の突出端部をベアリングプレートに近接する箇所から切
除できる。

*【図面の簡単な説明】

【図1】本発明工法の態様例をロックボルトの膨張前の
状態で示す断面図である。

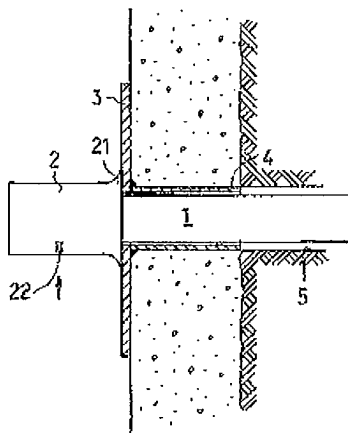
【図2】図1に示されたロックボルト及びベアリングプ
レート付きスリーブの斜視図を示す。

【図3】同ロックボルトの横断面図である。

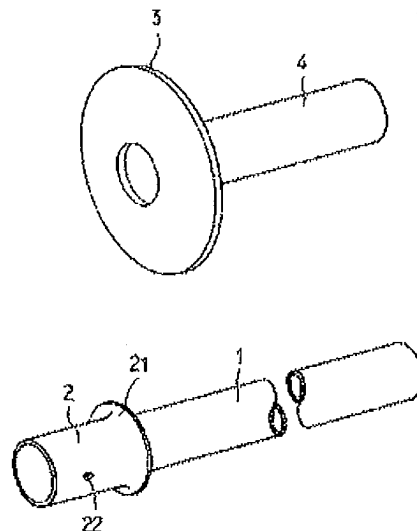
【符号の説明】

- 1 ロックボルト
- 2 ロックボルト口部のスリーブ
- 21 ベアリングプレート押え
- 3 ベアリングプレート
- 3 スリーブ

【図1】



【図2】



【図3】

